

領域にダブリが無い3教科

【領域別正答数の単純合計で平均正答率が判明】

【問題数】	数と式	図形	関数	資料活用	計＝出題数
中学数学A	12	12	8	4	36
中学数学B	3	5	5	2	15

【問題数】	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な 言語文化	計
中学国語A	4	6	5	17	32

ダブリ除外可能な2教科

【()の領域を除外し、他領域の合計で平均正答率が判明】

【問題数】	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な 言語文化	計＝出題数
小学国語A	1	(3)	2	12	15
小学国語B	3	(3)	7	(2)	10

ダブリが除外できない3教科

【領域別正答数の合計で平均正答率は算出できない】

平均正答率にかなり近い数字は算出可能

【問題数】	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な 言語文化	計(実際の 出題数)
中学国語B	0	3	8	4	15(9)

【問題数】	数と計算	量と測定	図形	数量関係	計(出題数)
小学算数A	8	3	4	3	18(17)
小学算数B	8	5	1	5	17(13)

全国学調正答率 公表表 問 題

和泉市教委の考えは甘い 領域別正答率公表すれば 小学校平均正答率判明

各校平均正答率 まるわかり

和泉市教委は「領域別の正答率の合計・平均では正確な正答率は算出できないと考えている。」（泉北教組への回答）としていますが、実際には小中併せて8教科中5教科で「正確な」平均正答率が計算できます。また、残り3教科も、平均正答率に近い数字は算出可能であり、「序列化につながるおそれは否定できるものではない」（同回答）どころか、完璧に近い序列化が可能です。

領域にダブリ が無い3教科

問題と領域の関係は、児童・生徒に返却された個票に記載されています。これを見ると、「中学校数学A」「中学校数学B」「中学校国語A」に領域のダブリは無く、領域別正答数を単純に合計するだけで、各学校の「正確な」平均正答率が判明します。

ダブリ除外可 能な2教科

「小学校国語A」と「小学校国語B」の領域にダブリがありますが、単純なダブリのため、A・Bの「書くこと」とBの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を除外して他領域を合計すれば、各校の「正確な」平均正答率が判明します。

ダブリが除外 できない3教科

「中学校国語B」「小学校算数A」「小学校算数B」は「正確な」平均正答率を算出できません。しかし、領域別正答数に各領域の出題比率を乗ずれば、かなり近い数字は算出可能です。

領域別正答率 公表強制をやめよ

このままでは、中学校9校（南松尾中は非公表）、小学校18校（幸小・南横山小・南松尾小は非公表）の「正確な」序列化が可能です。和泉市教委が昨年まで心配していた「学校の序列化、地域の格付等」が行われることになります。

和泉市教委は「平均正答率の公表には当たらない。」（同回答）との態度を撤回し、領域別正答率公表を学校に強制することをやめるべきです。



組合に加入して、「教育基本条例」「評価・育成システム」をなくそう！